

主管部局	国際連携機構	担当部局	国際連携機構
------	--------	------	--------

【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:①世界の大学・教育研究機関、国連、国際機関等との連携、交流強化】

(タイトル)  
①-(a) 海外の大学・機関との協定、学術交流、学生交流等の推進

(狙い内容)  
世界の大学・教育研究機関との協定を拡大し、戦略的連携交流ネットワークを構築する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

海外協定大学数 210校

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	海外協定大学数	評価尺度	A: 年度毎の目標値に対する達成度 100%	変更有無
	<変更時記入欄>		B: 年度毎の目標値に対する達成度 70%-99%	
			C: 年度毎の目標値に対する達成度 60%-69%	有(無)
			D: 年度毎の目標値に対する達成度 60%未満	
			<変更時記入欄>	
			A:	
			B:	
			C:	
			D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		171	179	186	192	198	204	210	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> A	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A					
	見込・実績・目標 (値又は状況)	<実績> 190		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 207	197	210	223	236	

【2016年度の進捗状況について】  
 順調に進捗している。  
 新規開拓の海外協定大学の選定にあたっては、「大学間協定の大学選定ポイント(選定基準)」に基づき、一定の質を確保している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>  
 中期計画で見込んでいた開発計画を見直したため

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

[http://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_m\\_001372.html](http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_m_001372.html)

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(1)に関しては、極めて順調に進展しており、年度計画通りの進捗状況であるといえます。海外協定大学数210校という2021年度までの数値目標はクリアできるものと思われます。課題は、これらのネットワークを通じて、どのような交流や活動が展開され、「世界市民の育成」という教育目標の実現にどのように寄与しているかを検証することです。単位互換制度やダブルディグリー制度に基づく正式な交流協定もあれば、形だけは大学間もしくは学部間協定とはなっていないが、実態は教員の個人的繋がりに依存しているケースも少なくないと思います。協定校の数と交流の質とは必ずしも比例しない大学が多い中であって、さすがは関学と言える交流の質の高さを期待したいと思います。(A)
- ・ネットワーク形成ということで協定校数を指標とするのも理解できますが、私の大学でも交流が絶えている協定校や、協定がなくても実施している交流もあり、実施してその協定であると思われます。貴学では全ての協定が実施されているのかも知れませんが、実施できている協定を数えることが望まれます。(B)
- ・海外協定大学数は2015年計画策定時の目標を上回るペースで着実に増加している点が評価されます。
- ・今後はその活動内容などの質的な評価の可能性も検討することが求められます。(C)
- ・協定大学数の増加は順調に推移していることは評価できる。今後は主要な協定大学との具体的な取り組みとその効果についても評価指標などに追加することも検討いただきたい。(D)
- ・海外協定大学数の数値目標の見直し(引き上げ)ないし、協定大学の所在地別の数値目標の追加設定が今後、期待されます。(F)
- ・海外協定大学数が順調に増えていることは評価できます。(G)

<教育研究目標3(1)～(2)全体に対する評価委員からのコメント>

留学生問題は、入試制度改革や短期プログラムの開発、学内奨学金制度の拡充など、解決すべき課題は少なくないのですが、大学のグローバル化は、留学生の受け入れや送り出しといった国際交流にとどまらず、教育システム全体の国際化を実現することにあります。教育内容が国際基準をクリアしているか、国際的通用性のある研究活動が展開されているか、教員の国際化は進んでいるのかなど、目配りが必要な事柄は多岐に亘ります。国の高等教育政策の柱である大学のグローバル化に対応する国際連携機構の業務は、貴学においても益々重要になると考えられます。関学をコスモポリタン大学に創成するという気概を持って業務に当たって欲しいと思います。(A)

**【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:①世界の大学・教育研究機関、国連、国際機関等との連携、交流強化】**

(タイトル)  
①-(b) 国際機関、国際NGO等との連携強化

(狙い内容)  
国際社会、国際協力への関心を高め、知識・経験を習得するとともに、より多くの情報を得るため、国連および国際機関・国際NPO/NGO法人、海外教育機関との連携を強化する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

国連ボランティア計画、JICA、ICRCとの連携を維持するとともに、海外教育機関との提携数を確保する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	提携機関数	評価尺度	A:最終目標値に対する達成度100%	変更有無
	<変更時記入欄>		B:最終目標値に対する達成度70%~99%	
			C:最終目標値に対する達成度60%~69%	有(無)
			D:最終目標値に対する達成度60%未満	
			<変更時記入欄>	
			A:	
			B:	
			C:	
			D:	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		17	17	17	17	17	17	17	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> A	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 17		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 21					

**【2016年度の進捗状況について】** ←  
順調に進捗している。  
連携先の所在地の安全性を検証し、モニタリングにより現地での活動内容、支援体制などを精査している。  
提携先との信頼関係を強化するとともに、新規開拓も行っている。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】**

- [http://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_005757.html](http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005757.html)
- <http://www.kwansei.ac.jp/kikaku/attached/0000090638.pdf>

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示**

- ・実績は国際機関の側で一方向的に定めるプログラムにより異ならざるを得ないので、提携機関数を指標とすることは理解できます。(B)
- ・国際機関、国際NGO等の提携機関数は、2015年計画策定時の目標(2021年度に17機関)を今年度、達成している点が評価されます。
- ・今後はその活動内容などの質的な評価の可能性も検討することが求められます。(C)
- ・提携数が増えていることは評価できるが、具体的な提携の活動内容と効果についても指標化できるとなおよい。(D)
- ・提携機関数の数値目標の見直し(引き上げ)ないし、提携先機関の専門分野別・所属別の数値目標の追加設定が今後、期待されます。(F)
- ・提携機関数だけでなく、提携内容の評価も必要と思われます。(G)

主管部局	国際連携機構	担当部局	国際連携機構 学生活動支援機構 財務部
------	--------	------	---------------------------

【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:②留学生数の拡大と受入プログラム、日本語教育の強化・拡充】

(タイトル)

②-(a) 国際教育の全学的施策の立案と実施

(狙い内容)

異文化を理解し、多文化との共生が可能な国際的に通用する人物(世界市民)を多数育成するために、海外大学および国際機関、国際協力機関等との協定に基づく学生派遣プログラム、学生受入プログラムを拡充し、体系的に整備する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

海外大学等との協定に基づく派遣学生数 2300人(内訳 大学間協定 1615人、部局間協定 685人)  
受入留学生数 1320人(内訳 大学間協定 1160人、部局間協定 160人)

<変更時記入欄>

海外大学等との協定に基づく派遣学生数 2300人(内訳 大学間協定 1615人、部局間協定 685人)  
受入留学生数 1350人(内訳 正規留学生650人、交換学生395人、短期留学生199人、部局間他106人)

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

留学生受入ロードマップが変更となったため(2016年7月15日 グローバル化推進本部会議)。

2. 達成度評価

評価指標	海外大学等との協定に基づく派遣学生数 受入留学生数	評価尺度	A : 年度毎の目標値に対する達成度 100%	変更有無  有(無)
			B : 年度毎の目標値に対する達成度 70%-99%	
	C : 年度毎の目標値に対する達成度 60%-69%			
	D : 年度毎の目標値に対する達成度 60%未満			
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		派遣1060 受入874930	派遣1110 受入9951020	派遣1210 受入1035	派遣1320 受入1070	派遣1560 受入1245	派遣2000 受入1290	派遣2300 受入1320	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> A	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> A					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 派遣1066 受入1052		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 派遣1361 受入1101	受入1080	受入1140	受入1200	受入1275	受入1350

【2016年度の進捗状況について】

順調に進捗している。  
学生派遣については、短期、中期プログラムを積極的に開発した。単位取得プログラムによる派遣者数は1270人である。  
受入留学生については、交換学生対象のプログラムを改編するとともに、日本研究のための短期プログラムを開発した。  
交換学生は315人であり、本学独自のカリキュラムおよびホームステイによる交流に対する学生の評価が高い。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

留学生受入ロードマップが変更となったため(2016年7月15日 グローバル化推進本部会議)。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

[http://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_005914.html](http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005914.html)  
<http://www.kwansei.ac.jp/kikaku/attached/0000090638.pdf>

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示**

- ・ 貴学は、留学生の受け入れ数より派遣学生数が多く、「内向きの学生が多い」といわれる多くの大学と較べて、誇ってよい大きな特徴です。減少する18歳人口に対する大学の防衛策として留学生受け入れ枠を拡げようとする大学とは全く様相が異なっており、グローバル化の意味を体現した好ましい傾向として大いに評価できます。(A)
- ・ 受入れの場合、正規の留学生、交換留学生、短期の留学生では、受け入れの際の意味合いがまるで異なります。今回、受け入れの内訳が示されたのは評価できません。貴学の場合、もっと高い目標をもたれることを期待します。(B)
- ・ 海外大学への派遣学生数や海外大学からの受け入れ学生数は、2015年計画策定時の目標を上回るペースで着実に増加している点が評価されます。(C)
- ・ 留学生・派遣の数値が増加していることは評価できる。派遣2300人の目標を前倒しできるべく活動を推進いただきたい。(D)
- ・ 派遣学生数の目標の再設定(最終目標値の前倒し設定)、国別の協定大学数と派遣先国別の派遣学生数・留学生数との関係からする新規目標設定等の検討が今後、期待されます。(F)
- ・ 海外派遣学生数、受入学生数だけでなく、その内容の評価も必要と思われます。(G)

【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:②留学生数の拡大と受入プログラム、日本語教育の強化・拡充】

(タイトル)  
②-(b) 日本語教育の全学的施策の立案と実施

(狙い内容)  
外国人留学生の多様な日本語教育のニーズに応えるプログラムを提供し、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)  
正規、交換、短期の全留学生を対象とした日本語教育科目の全プログラムにおいて、専任教員が開発、進捗管理、実施状況のレビュー、改善までを責任を持って行う体制を強化する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価		変更有無
評価指標	①受講生の満足度 ②短期プログラムの参加人数	A: 満足度が十分高い(満足+まあまあと思うが80%以上) /SGUの数値目標に対する達成 B: 満足度が高い(満足+まあまあと思うが75%-79%) /SGUの数値目標に対する達成 C: 満足度がやや低い(満足+まあまあと思うが65%-69%) /SGUの数値目標に対する達成 D: 満足度が低い(満足+まあまあと思うが65%未満) /SGUの数値目標に対する達成
	<変更時記入欄>	
評価尺度	<変更時記入欄> A: B: C: D:	有(無)

3. 年度毎の目標値								変更有無
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2015年度(計画策定時)		①満足度調査方法検討中 ②96(2015年度)	①満足度調査方法確定し、調査実施 ②参加人数の目標値設定	①満足度が十分高い ②135	①満足度が十分高い ②135	①満足度が十分高い ②135	①満足度が十分高い ②180	①満足度が十分高い ②180
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> A	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> ①調査方法検討 ②96(実績)	実績 <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> ①春84.4%、秋86.5% ②106					

【2016年度の進捗状況について】 ←

順調に進捗している。

日本語教育科目の満足度調査結果は、「そう思う」「まあまあ思う」の合計が、春学期 84.4%(正規学生75.5%、交換学生92.2%)、秋学期 86.5%(正規学生72.5%、交換学生90.8%)であった。分析結果を授業改善に反映させる。  
短期プログラム参加者目標値は、SGU施策に基づく短期プログラム受入学生数のロードマップとする。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:  
②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

- [http://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_008201.html](http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_008201.html)
- [http://global.kwansei.ac.jp/study\\_abroad\\_at\\_kg/study\\_abroad\\_at\\_kg\\_203348.html](http://global.kwansei.ac.jp/study_abroad_at_kg/study_abroad_at_kg_203348.html)

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- 国際性豊かなキャンパスの実現に向けて、大学の努力で実施可能なのは、短期プログラムの充実です。参加人数の目標設定は不可欠であり、目標値の設定は方向性として評価できます。(B)
- 日本語教育プログラムの受講生の満足度、受け入れ人数ともに目標をクリアしており、評価することができます。(C)
- 目標値の設定が求められます。(E)
- 日本語教育の受講生の満足度が高いことは評価されます。(G)

**【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:③国際協力プログラム参加者の積極的拡大】**

(タイトル)  
③-(a) 国際協力に関する実践的なプログラムの開発、提供

(狙い内容)  
国際社会、国際協力への関心を高め、国際社会における諸課題を理解し、解決に貢献できる人材を育成するために、実践的なプログラムを開発、提供する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

国際協力関係プログラム参加者数 50人

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	国際協力関係プログラム参加者数	評価尺度	A : 最終目標値に対する達成度100%	変更有無
	<変更時記入欄>		B : 最終目標値に対する達成度70%～99%	
			C : 最終目標値に対する達成度60%～69%	有(無)
			D : 最終目標値に対する達成度60%未満	
			<変更時記入欄>	
			A :	
			B :	
			C :	
			D :	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		39	50	50	50	50	50	50	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A～D	<実績> A	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A						
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 39	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 52	38	38	38	38	38	

【2016年度の進捗状況について】  
 順調に進捗している。文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」において、本取組での参加学生数を目標値として設定し、推進してきたが、補助期間の終了とともに、プログラムを運営する教員体制が縮小されたため、次年度以降の目標値(参加者数)を見直す(第34回「グローバル化推進本部会議」(2016.7.15開催)了承)。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>  
 文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」において、本取組での参加学生数を目標値として設定し、推進してきたが、補助期間の終了とともに、プログラムを運営する教員体制が縮小されたため、参加者数を見直す(第34回「グローバル化推進本部会議」(2016.7.15開催)了承)。

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい ・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】**

[http://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_005914.html](http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005914.html)

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示**

- ・ 国際協力プログラムの実施には人手が必要なのは事実ですが、補助期間終了とともに数が減るのは如何なものでしょうか。ここに示された見込み数は、補助前の旧に復するのでしょうか、それとも補助開始時よりは増加しており、補助期間終了時の目標が野心的に過ぎたのでしょうか。説明が求められます。(B)
- ・ 文部科学省補助事業の終了とともに、体制が縮小し、参加する学生数も減らすという点は残念であり、プログラムの実施に支障がないように運営面での配慮が望まれます。(C)
- ・ 目標値の見直しが求められます。(E)
- ・ 参加者数だけでなく、プログラムの内容についての評価も必要と思われます。(G)

主管部局	国際連携機構	担当部局	国際連携機構
			学生活動支援機構
			国際教育寮WG

【(2)外国人留学生に対する修学環境整備:①混住型国際教育寮の拡充、②留学生パートナー制度の整備】

(タイトル)  
外国人留学生の生活支援の充実

(狙い内容)  
外国人留学生の経済支援、生活支援を行うことにより修学環境を整え、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

混住型国際教育寮に入居する留学生数 36人  
サポートする学生の登録者数 700人

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	①混住型国際教育寮に入居する留学生数 ②サポートする学生の登録者数	評価尺度	A: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値80% -100%	変更有無  有(無)
	<変更時記入欄>		B: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値70% -79%	
			C: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値60% -69%	
			D: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値60% 未滿	
			<変更時記入欄>	
			A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		①12 ②540	①24 ②550	①36 ②600	①36 ②650	①36 ②670	①36 ②690	①36 ②700	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> A	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C						
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> ①12 ②453	実績 ①13 ②610	国際教育寮WG答 申を受けた学長 の指示により見 直す					

【2016年度の進捗状況について】

①混住型国際教育寮の増設が進んでいない。グローバル化推進本部のもとに国際教育寮WGが設置され、国際教育寮全体の今後の方針について答申が出された。(2016.10.7 グローバル化推進本部会議を経て学長に提出)これを受けての学長の指示により、行動計画や目標を見直す。  
②サポートする学生は、日本語パートナー、GSネットワーク、インターナショナルパートナーの各制度による登録者である。日本語パートナーは、日本語を学ぶ交換学生1名につき2名の日本人学生を採用している。英語で日本の文化、ビジネスを学ぶコースの新設に伴い、主として日本語を学ぶ交換学生数が減少したため、同パートナーの登録者数が減少している。一方、2015年度に発足したGSネットワークは活動を拡大しており、登録者数も増加している。内訳は、日本語パートナー438人、インターナショナルパートナー92人、GSネット80人である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:  
②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

<http://www.kwansei.ac.jp/kikaku/attached/0000090638.pdf>

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(2)で注目すべき点は、混住型国際教育寮の充実が今後どのように実現されるかという点です。留学生36名に対して100名のサポート学生の協力を予定しているが、かなり手厚い支援体制であるように思われます。以前と比べ、アジアからの留学生の数が減少傾向にある現在、留学生のニーズのみならず、支援する日本人学生のニーズにも十分配慮し、国際交流の学内拠点として機能することを期待します。(A)
- ・外国人留学生の居住環境の整備、充実の観点から、寮の整備、充実が図られることが期待されます。(C)
- ・混住型国際教育寮の充実が大切です。見直しの結果が注目されます。(E)
- ・混住型国際教育寮への入居者の増大と、この教育寮の増設が望まれます。(G)